

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成31年(2019年) 4月

1 東京都中央卸売市場(平成31年(2019年) 1-3月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約45万tで、前年比2%増、金額は約1,296億円前で前年比13%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約5.2万tで、前年比5%増、金額は約108億円で前年比27%減となった。
(金額の内訳は、野菜約89億円、果実約19億円。前年同期比で野菜31%減、果実1%増、平年同期比で野菜17%減、果実7%増)
金額が【増加】した品目(前年対比)：きゅうり(112%)
金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(27%)、みずな(65%)、こまつな(66%)
- ③ 茨城県の青果物入荷量は平年比4%増(シェア11.6%)、取扱金額は同14%減(シェア8.3%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-3月計)			
	1-3月計	年間計	年間比	1-3月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H31(2019)	450,844		52,093	←シェア(11.6%)		12.9%	7.5%	3.7%	
	H30	440,849	1,907,279	23.1	49,778	225,946	22.0	12.5%	9.6%	3.7%
	(前年比)	102			105	シェア(11.3%)				
	平年値※	468,001	1,978,757	23.7	50,311	228,350	22.0			
	(平年比)	96			104	シェア(10.8%)				
金額	H31(2019)	129,572		10,808	←シェア(8.3%)		8.2%	3.4%	9.1%	
	H30	149,069	568,808	26.2	14,720	56,745	25.9	9.6%	3.2%	7.8%
	(前年比)	87			73	シェア(9.9%)				
	平年値※	139,846	563,980	24.8	12,532	57,101	21.9			
	(平年比)	93			86	シェア(9.0%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5か年平均。
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
平成30年実績
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)
千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)
北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)
栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

2 東京都中央卸売市場(平成31年3月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約15千トン(101%)、単価は209円(84%)、金額は約32億円(85%)

果実類の入荷量は約0.6千トン(103%)、単価は1,143円(109%)、金額は約7.4億円(113%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5か年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	レタス類	3,514	98%	104%	89%	166	101%	80%	82%	581,758	99%	83%
	ピーマン	581	84%	85%	93%	658	115%	117%	113%	382,588	97%	99%
	れんこん	603	82%	90%	90%	552	131%	100%	99%	332,571	107%	91%
	ほうれんそう	689	109%	131%	99%	338	86%	75%	82%	233,352	93%	99%
	野菜総計	15,236	101%	102%	96%	209	84%	82%	90%	3,184,763	85%	84%
果実	いちご類	564	101%	96%	94%	1,225	111%	122%	115%	691,051	112%	117%
	果実総計	646	103%	99%	93%	1,143	109%	119%	109%	737,564	113%	118%

(野菜)

多くの品目でこれまでと同様に動きが悪く、安値傾向が続いているが、2月の天候不順や端境の影響により、果菜類や葉物類で一時期不足感が出て、相場はやや上向きだったものもある。
はくさいやキャベツ等の重量野菜は、潤沢な入荷が続く、引き続き安値傾向が予想されている。

(果実)

柑橘類が前進出荷となり、果実売り場の中心がいちごとなる中、2月の天候不順により九州・関東近で下旬を中心に数量少なく、単価が高い状況が続いた。中旬以降関東近在が増量、下旬からは九州産地も増加し、単価は徐々に下落傾向となった。
すいか類は暖冬の影響から出荷が前進し、やや遅れた昨年より数量が伸び、出荷始めのため単価も高値で推移した。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター実績を基に算出